

第2回荒尾市観光振興計画（第2期）策定委員会 議事要旨

■日時 平成28年11月28日（月）午前10時～

■場所 荒尾市役所 51号会議室

■出席 委員総数18名中15名

出席委員：藤原恵洋、山代秀徳、古庄淳一郎、西川誠、原口文明、西川克己

前田和隆、蜷川智之、江寄大作、田中宏昌、外山由恵、

栗山純一（代理：高橋亜紀）、橋本茂樹、川上伸二、一木鉄也

荒尾市観光振興計画策定アドバイザー：伊原和彦

事務局：産業振興課 宮本雄一、馬場理恵子、安松知恵

オブザーバー：荒尾市観光協会 専務理事 進藤健介

●議事

(1) 前回の議事要旨について

宮本産業振興課長が説明を行った。

【意見・質問・要望】なし

○承認

(2) 計画素案について

【伊原アドバイザーからの助言】

・今回の計画は、世界遺産となった万田坑、ラムサール条約湿地の荒尾干潟とビジターセンターの設置、道の駅がどうなるかがポイントである。観光客を受け入れる市民や委員の皆さんが役割を個々に受け止めて具体的に何をしていくのか、ワークショップでは前向きで忌憚のない意見が出ているので、第2期計画に織り込んで実現するよう進めていきたい。この3年から5年は荒尾にとってチャンスであり、絶好のタイミングである。この期間に具体的な成果を挙げることが一番の課題ではないか。

・インバウンドは、先を見据えて方向性を考えるのが難しくなっている。また、TPPの問題も来年度の国の予算に影響が出そうである。そういう中で、荒尾で具体的に施策をやっていく中、5年間の中で修正することも出てくるかもしれない。情報を取りながら、実現に向けて少しでも近づけていくことを計画の中に織り込んでいけたらと考えている。

・昨日のワークショップでは、どうやって荒尾を良くしていくのか出してもらい、3つの重要なことが出された。ひとつは交通インフラである。観光客にとって荒尾までのアクセスは恵まれているが、着いてからが不便なので2次交通の整備を進めなくてはいけないのではないかという意見が出ていた。

次に、荒尾には観光を発信していくところがないということが出た。これは観光客など来た人が「ここが荒尾の観光の拠点だ」と思える場所がないということである。それから、荒尾の観光の売り込みや発信力が弱いというのが出された。荒尾にはいいものがたくさんあることを認識していて、それを情報発信していく力が足りないということである。農産物や海産物をもっと表に出す機会が作れないかという話でもある。番外として「大鍋大会」ができないかと出たが、荒尾の農産物を荒尾の中で再認識する機会を作るということである。

また、同じ番外として荒尾のまちの市民や各施設が同じ花を植えて咲かせるようなことができないかという意見があった。他にはまちをもっときれいにしようというのもあった。役所にきれいにしてくれという話だったが、これは皆さんでやりましょうと提案した。ボランティアで場所を変えながら年に何回かやり、きれいにした後には花を植えればこれは最大の観光客へのおもてなしになる。

・現実的・実務的な観光推進ともう一面、地元の人意識が高まって、いろんな施策をして観光客が来たときに、市民が観光客をもてなすということを第2期計画に盛り込み、少しでも成果が出る計画にしたい。市民の皆さんは熱い人ばかり。思いが少しでも実現したらいいということも添えて助言とする。

①素案全体の構成 ②序章-5.第1期計画の検証 について、安松参事が説明を行った。

〔資料に沿って説明〕

【意見・質問・要望】

○1期のと、市では景観計画を作っている。景観計画の中では市民から意見を出してもらい決めた「荒尾八景」を生かそうといっているが、これは観光とつながるのではないか。また、「荒尾八景」はどのくらい市民の皆さんに浸透しているのか。

〔事務局〕「荒尾八景」は平成23年に、市民から広報で募集して決めた。市の各施設にポスターパネルを飾った。写真も使用してもらえるようウェブサイトに写真を出したことで、企業等からも使用したいと問い合わせも寄せられた。

○意外と市民の皆さんに浸透していないと感じる。しかし「荒尾八景」そのものは大変面白い。8つの景色が荒尾を代表するものとして荒尾の都市を作る景観形成上重要なものであり、荒尾の大きな宝だと思う。これは観光に置き換えても全く同じことが言える。ここから見える課題だが、役所で立てられるさまざまな計画を、観光では総括していただく必要があるのではないか。庁内でのすり合わせが十分できていないと思う。また、市民の皆さんが「荒尾八景を回りたい」といわれたらどんどん案内するとか、荒尾駅に降り立った人が荒尾八景を巡るコースがあるとか、そこにはまだ至っていないように思う。

〔事務局〕これについてはもう一度検討したいと思う。

③第2章3.施策体系及び4.基本施策 ④第2章5.目標（成果目標） ⑤第3章1.計画の推進及び2.それぞれの役割 について馬場観光推進室長が説明した。

〔資料に沿って説明〕

【意見・質問・要望】

○交通インフラについてだが、理想としては便数が多い方がよく、便が多いと利便性も良くPRもしやすいが、現実には人があまり乗っていない。走るほどバス会社の経営を圧迫し、市営バスの引き継ぎ路線だと税金による補てんが大きくなる。観光客の数が増え利用者が増えると解決になるが、理想と現実の歩み寄りをどう具体的に進めていくか、非常に大きな課題と感じている。

○インバウンドでは、佐賀空港は非常にアクセスが良く魅力的だ。ソウル便が増えるなどインバウンドの入込みの窓口となっている。また、田主丸の方ではフルーツ狩りで外国人がここ3年間で3.3倍くらいに増え、荒尾梨などのフルーツは外国人への売り込みにつながる。これらのような切り口で商品造成ができるのではないか。

○万田坑についてはもう一度来たいと思うかどうかである。また、干潟はビジターセンターが計画されているが、海が見えないとか物販ができないとか制約があり、果たして人が来るのか、どうやって人に来てもらうような施設にするのかが非常に大事である。今の状況で作っても人が来るのか疑問である。

○道の駅は、増えてもいるが倒産しているところも多い。スーパーも直売所を作っている。岩本橋のときめき市も厳しい経営が続いている。これらの状況を踏まえ、荒尾市単独でつくるのか広域的に他の道の駅等と連携するのかなどなど考えないといけない。商品が多く揃っていて、よほど魅力がないと人は来ないと思う。

○ブランド推進協議会との関連はどうなっているか。オリーブを各家庭に植えるなどアピールをして「オリーブは荒尾」というイメージ付けをしないと、今では天草も長崎などあちこちでオリーブを植えているので競争が激しく、厳しくなると思う。

○それらをトータルに考えて、本当に荒尾にいい産物をつくるのが基本的な考えで、そうでないとどんなにアピールしてもうまくいかない。その辺の連携がどうなっているのか。

〔事務局〕ビジターセンターは早ければ来年度着工という話もあり、同時に道の駅の話も出ている。素材をつなげて2次交通等で周遊させるという思いはあるが、まだこれからである。連携については、特にブランド推進協議会は当課も事務局の一端を担っているので、農林水産課とは一体化してやっていく。干潟のことも、マジック釣りのインストラクター研修を当課が行う形で連携してきたこともある。

○各部署でそれぞれちゃんとまとめ、総体的につなげていかないとちぐはぐになってしまう。しっかり宜しく願います。

○赤字でお荷物になるような道の駅は作るべきではない。魅力ある道の駅にするためには、良好な交通アクセス、山や海の荒尾の物産、情報の拠点としての機能があり、

日々人が集まる施設を作らないと商業者も集まらない。道の駅はまだ何も決まっていないうが、有明海沿岸道路のサービスエリア機能を持った道の駅にするなどして、観光客だけでなく市民が毎日買い物に来られる施設になって初めて黒字の施設になると思っている。それには道路の予定を把握するなどし、計画を立ててやり上げていくことが大事である。

【伊原アドバイザーからの助言】

- ・出された意見は全てつながっていて非常に大事な話である。道の駅、荒尾干潟のビジターセンターなどすべてで担当課が違い、行政の中で課の枠を超えて連携し支援をしてもらわないといけない。

- ・2次交通については、地元の人のご意見や素材の将来性や3年後5年後のことを考えたときに、観光客向けルート周遊型のバスを作るべきだと思う。しかし現状走らせたら赤字なので、素材作りとインフラ作りを両面同時に進行しないとルート周遊バスはできない。インバウンドの話もあったが、国内需要と若干違う部分があり、急に施策や風向きが変わることがある。だから中長期的な部分と短期的な部分も両面で考えていかななくてはならない。

インフラとして、西鉄電車が天神から大牟田に特急で6~7両編で1時間に2本、荒尾駅には8両編成が1時間3本、福岡から快速で1時間10分で到着するととても良い環境であることは確認してほしい。福岡県の糸島より実は荒尾の方が恵まれている。2次交通で路線バスの活用では、荒尾の観光客には響かないだろう。荒尾駅でJRに接続して、理想は40分間隔で観光地を巡る。できれば最終的には大牟田に回ると宮原坑にもつながり、西鉄電車ともつながる。このようなことを考えて計画を立ててほしい。2次交通の整備のために各課が予算を持ち出してもいいのではないかな。現状、観光客が来てもインフラがうまくいっていないことは事実なので、2次交通は作らなくてはならない。しかし同時に魅力づくりもしていかななくてはならないので、両方にあえて猶予期間を設けて2~3年越しで予算も含めて計画して推進してほしい。

- ・荒尾市において「グリーンランドがいつまでもあると思っただけいけない」ということを話したい。東京の有名な遊園地は15期連続で赤字であり、経営母体は東京都、東京都競馬で、一部からやめたほうが良いという話が出ている。グリーンランドが今、突然経営をやめることはないとは思いますが、もし荒尾にとってグリーンランドがなくなったらどうするか。雑誌の「荒尾市民にとって荒尾の一番の押しは何か」というアンケート結果では、一位は万田坑ではなくグリーンランドで、市民は荒尾の観光の目玉はグリーンランドだといっている。グリーンランドがなくても荒尾の観光ができるというくらいがんばってやろうというのがまず前提として必要なのではないかな。

- ・基本施策について、かいつまんで話す。

〔(2) おもてなし向上〕先週群馬県の富岡製糸場に行ってきた。各地にある世界遺産は

3年経ったら京都を除いてすべてで人数が減っている。万田坑も今年は熊本地震の影響があったと思うが、来年は普通でいけば減るということを考えて、登録から3年目の富岡製糸場を見に行っただ。

平日で雪が降っていたが観光客が多く、ローカル私鉄で1時間に1本2両編成の列車が満杯だった。みんなチケットタイプで記念になる富岡見学往復割引乗車券を持っていて、最寄りの富岡駅では乗客の8割が下車した。製糸場は駅から歩いて15分、タクシーは730円かかるが駅前のタクシーは全部出払っていた。3年経っても、車はあるが乗務員が足りないという課題がある。

製糸場ではガイドが1人につき200円必要だったが、40分おきに定時ガイドが出ているが、観光客が多くガイドがずっと必要なのでガイドはいつも待機している。

製糸場は入場料が1人1000円で、見学往復割引乗車券を買えば500円になる。西置繭所は今工事をしているのを見るのに別に200円必要だったが、その価値は十分にあり、なぜ世界遺産になったのか1時間で非常に良く分かった。欲をいえば建物の材料や使われた石炭のことまで詳しく知りたかった。でも観光客はしっかり満足して帰っていて、ここはまだやっていけるという印象を持った。

しかし、門の横で写真を撮ろうとしたら、警備員が退かず、無表情で立っている。皆さんが警備員ならまず退き、「写真を撮りましょう」などと声をかけるのではないか。製糸場は3年間努力してこられたという印象を受けたし、観光客は施設に満足して帰っているというのに、警備員1人の態度で良い印象が台無しになることもある。だから地域づくりが大切だと訴えている。こういうことの改善、意識の向上がもてなしになる。

〔(4) 花と緑を活かした景観づくり〕大人がまず行うのではなく、学校の子どもたちに種を持って帰ってもらい、家の人と一緒にすると実現しやすい。本当に実行しようというときにやり方を考え、どこからスタートするかが大事である。

〔(3) 観光基盤づくり〕2次交通の整備はまずお金の話を考えなくてはいけない。最初から黒字になるわけではなく、赤字から始まるという前提の下でやるのが大事である。行政は課を超えて整備をしてほしい。

〔(6) 戦略的なプロモーション〕千葉県房総半島のある町は、世界で死ぬまでに一度行ってみたい絶景といわれるボリビアのウユニ塩湖の風景にそっくりだということで、1日に2000人の観光客が来る。兵庫県の竹田城址には天空の城として広まり写真の聖地になっていて、年間9万人来ている。どちらもSNSで広まっており、これも見せ方である。

情報は、今までのように旅行会社へ発信するだけでなく、観光拠点作りと同様にネットの拠点作りも行い発信するのはどうか。荒尾を検索したらたとえば「荒尾のイイネ！」というワードが一番にヒットするようにネットにも拠点を作る。パンフレットに「荒尾のイイネで検索」と載せ、個別に検索するよりこのワードひとつで荒尾のいいもの全て

が出てくるようなものを作っていくのである。

〔(7) 教育旅行誘致〕9月に京都市の校長会で荒尾の教育旅行プログラムについて、情報を発信できた。京都市の校長と修学旅行担当の先生がいる場所でプレゼンテーションしてもらったが、これはお金をかけてできる情報発信ではない。翌日にはある旅行会社から問い合わせもあって、浸透していると確信した。このような的を絞った情報発信戦略もぜひやっていきたい。

○まとめ 作りこんでいく部分と将来のインフラ含めた管理などと、この第2期計画はそれらが両輪となっている計画である。繰り返しにはなるが、行政はしっかりと課を超えてやってもらうことを願います。

⑥序章（第1期の検証を除く）、第1章、第2章（施策体系及び基本施策を除く）について馬場室長及び安松参事が説明を行った。

〔資料に沿って説明〕

【意見・質問・要望】

○P32の「里の魅力」のところに、荒尾梨とオリーブがある。オリーブは耕作放棄地の代替で、オリーブはなかなか実がならないのに入れておいていいのか。耕作放棄地に植えているだけという感覚である。もう少し栽培技術が進めば獲れるかもしれないが。

〔事務局〕

オリーブは7年目になるが、耕作放棄地を使って新しい農業として出発したもの課と思う。農林水産課も絡んでいるのでそのあたりも一度確認したい。方向性としてはこれも売っていききたいので、掲載する方向で考えたい。

(3) その他

【意見・質問・要望】なし

●今後のスケジュール

宮本産業振興課長がスケジュールについて説明した。第3回の委員会を2月上旬に行うこと、パブリックコメントとその手続きの日程及び本会議の議事要旨の確認を文書にて依頼し、諾否について回答を頂くことをあわせて説明した。

○了解

●その他

○なし

●閉会